

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月18日

1 令和6年度の重要課題及び重点事項

- ◎ **知** 「学ぶ力の育成」・・・学習指導の工夫改善A
- ◎ **徳** 「豊かな心の育成」・・・道德教育の充実、いじめ・不登校・命の指導の充実
- ◎ **体** 「健やかな体の育成」・・・食育の推進、心身の健康増進（運動・体力・生活）
- ◎ **信頼** 「信頼される学校の創造」・・・小中及び地域社会との連携の推進

2 学校教育目標～望まれる生徒像に対する自己評価結果

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
	望まれる生徒像（健やかで意欲的に学ぶ心豊かな生徒）の育成に努め、その成果が表れている。	A	健やかに生活し、意欲的に学ぶ生徒の姿が多く見られ、心豊かな生徒の育成を目指した道德教育の充実も図られた。「望まれる生徒像」の共有が昨年度も課題として挙がっていたため、生徒や保護者、さらには地域がこれを意識できるような発信の方法を工夫する。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	多様な対応が求められる中ではあるが、学校教育目標の実現に向けて今後も改善を図り続けていくことを期待したい。			

3 教育推進の重点に対する自己評価結果

重点	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
と 研 修 の 推 進	校内研修に意欲的に取り組んでいるか。	B	「生きる力をはぐくむ教育の創造」を研究主題に据えた校内研修を展開するにあたり、指導力や専門性の向上に資する研修機会の充実が必要である。札幌市の求める教員像と教員育成指標に基づき、教師自身も主体性をもって自らの学びをデザインし、研修等での学びを生徒に還元しようとする意識を高めていく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	生徒の主体的な学びの実現のためには、教師自身が主体的に学ぼうとすることが不可欠。限られた時間の中ではあるが、様々な研修の機会を確保していただきたい。			
学 年 ・ 学 級 経 営	学校行事（体育大会、文化祭合唱部門、学校祭、旅行的行事等）は充実している。	A	学級閉鎖等もなく、年度当初の計画通りの行事を実施することができた。生徒としても高い達成感を味わえたものであったため、それぞれの取組の位置付けを再確認しつつ、内容を精選しながら引き続き達成感や成果を上げられるよう工夫する。	A	A
	学級活動や生徒会活動などは活発であり、生徒は積極的に参加している。	A	「学ぶ力」育成に向けた二本柱の一つである「さっぽろっ子自治的な活動」の理念を踏まえ、自分たちの意思を実現したり、自分たちで問題を解決したりするような機会を保障し、「与えられる活動」からの脱却をより一層図っていくよう計画段階から意識する。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	学校生活での充実感を高めるためには、様々な活躍の場を設定することが重要であるため、今後も取組を継続し、更に多くの方に見ていただく機会も保障できるとよい。			
指 導 ・ 援 助 の 工 夫	「わかる・できる・楽しい授業」を行うように工夫し、授業改善を図っている。	A	個々の生徒の学習状況に応じた指導・支援を継続することができている。全国学力・学習状況調査の同項目に係る質問でも、肯定的回答が全国および道平均を上回っており、札幌市の共通指標においても高い数値であるため、今後も一人一人のニーズに応えつつ、課題探究的な学習のより一層の充実を図っていく。	A	A
	点数だけで判断せず、生徒のあらゆるよい面を見て学習評価をするように努めている。	A	学習に対する取組状況を丁寧に捉え、積極的に認めようとする授業設計を継続することができた。一方で、全国学力・学習状況調査の同項目に係る質問では、肯定的回答が全国および道平均を下回っているため、小テストや定期テストだけではなく、日常の学習におけるフィードバックをより一層心がけていく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	学校の努力が十分に現れているので、学習サポート体制の充実を今後も継続していただきたい。地域の方や大学生のサポートなど、様々な資源の活用も検討していただきたい。			
共 通 理 解 に 基 づ い た 生 徒 指 導	生徒から相談があった場合、話をよく聞き、適切に対応している。	A	年に2回の教育相談を設定し、生徒の「話したい」に即応できるよう、アプリの活用も進めることができた。引き続き、全教員が日常的に相談に応じる雰囲気や信頼関係の構築に努める。	A	A
	生徒を理解し、良いことや努力した場合、認めている。	A	登校時はもちろんのこと、学校生活の様々な場面で生徒を見守り、積極的に挨拶を交わす習慣がある。個々の生徒の表情やアプリの活用を通して、生徒の心身の状態を適切に把握し、生徒に寄り添っていく。	A	A

	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
共通理解に基づいた生徒指導	生徒が学年や学級で好ましい交友関係になるように指導している。	A	週に一度の「いじめ防止委員会」の実施を通して、教員同士の情報共有を図り、適切な指導の方向性を検討することができた。未然防止のための啓発を引き続き行いつつ、生徒同士の相互承認の意識を高められるような関わりを大切にしていく。	A	A
	中学生らしい身なりや言動を指導している。	A	服装や持ち物等、きまりの共通理解を図りながら組織的に対応してきた。道徳科の授業や行事等と関連付けつつ、規範意識の向上を図ろうとする態度を育む。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	生徒たちは非常に多感な時期ではあるが、丁寧な対応を継続していただきたい。また、アプリの機能を最大限に利用し、生徒の状況を適切に把握することも続けていただきたい。			
生き方指導の充実	進路や職業について、必要な情報を与え、指導している。	A	全学年の保護者に対し、進路指導に関わる情報提供を積極的に行うための進路説明会を実施できた。3年間を見通した進路指導計画の工夫・改善については各授業の特性・位置付けに留意しながら行っていく。	A	A
	生命を大切に作る心や他人を思いやる心、善悪の判断などの道徳性が身に付くよう適切に指導している。	A	道徳教育の要となる道徳科の授業について、全教員の担当のもと実践することができた。今後も、学校生活の様々な場面で深く考える機会を大切にしていく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	全教員・全学年など、「全」を強調する姿勢は非常に重要。生徒一人一人に寄り添い、進学だけでなくさらにその先を見据えた指導を心掛けていただきたい。			
地域社会と の連携 ・ 小中及び家庭	学校は、学校だよりや学年だより、ホームページ等で学校、生徒の様子をわかりやすく伝えている。	A	適宜ホームページを更新し、学校の様子を伝えてきたが、発信の仕方や頻度について改善を図る。学校便りでは積極的に生徒の声を発信することができた。また、必要に応じてYouTube 配信を行うこともできた。	A	A
	学校は、保護者や地域住民の要望等に、誠実かつ適切に対応している。	A	保護者や地域住民からの情報・要望等について、丁寧に対応することができた。それぞれの思いを十分に聞きとりつつ、一体となって生徒を育てているという意識をもって取り組んでいく。	A	A
	必要に応じて家庭と連絡を取り合うなど、家庭との連携に努めている。	A	家庭との連絡については引き続き密にとることができた。学校から足が遠のいている生徒・家庭に対する連絡も途切れることのないよう努め、すぐるやシャボテンログなどのアプリも有効活用していく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	ホームページにおいては、一目見ただけで学校の「いま」が分かったり、更新されていることが伝わったりするような工夫を心掛けていただきたい。			
特別支援教育の充実	特別に支援を必要とする生徒に配慮するとともに、一人一人がお互いを認め合えるよう指導している。	A	一人一人の教育的ニーズを把握するとともに、個別の支援計画を立て、支援や助言を的確に実践する。学びの支援委員会を中心としながら関係各所との連携を密にして、個別の支援をより一層充実させる。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	「まちあかり」の取組の際にも、落ち着いて親和的な雰囲気が感じられた。今後も、温かい関係性の構築と、他機関との適切な連携を継続していただきたい。			
健やかな体の育成	健康や食に関する指導を適切に行っている。	B	給食だよりや保健だよりを通じた啓発や、昼休み特別企画による体力増進企画を継続できた。学級活動(2)エヤオにおける実践や総合的な学習の時間との関連を図っていくことを視野に入れて指導の充実を図る。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	生徒が自らの健康について意識できるような取組を継続するとともに、ICT端末を使った新しい取組の創出などにも前向きに検討していただきたい。			
危機管理意識の醸成と定着	管理場所の安全点検をきちんと行い、安心・安全な環境づくりに努めている。	A	危機管理マニュアルの見直しを行うとともに、日常的な安全点検を進められた。生徒が安心して学校生活を過ごせるよう、より一層意識を高めていく。	A	A
	学校は、校務支援システムを効果的・効率的に活用している。	A	日常的に活用しつつ、適宜使い方の整理も行ってきた。特に情報管理の面に留意しつつ、さらに効果的な活用方法の検討を続けていく。	A	A
	学校は、生徒の安全に配慮し、登下校指導など事故防止について、適切に指導している。	A	避難訓練を2回(火災・地震)行うことができた。今後さらに訓練の方法を工夫し災害時に備える。すぐる等を通じて、迅速で正確な情報提供を行う。また、全教員で丁寧な下校指導も行えたため、地域住民の声も踏まえつつ、適切な指導を継続する。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	過去に地震による被害も経験している地域なので、地域と一緒に取り組める訓練や、災害時に中学生ができるボランティアの在り方を考える機会なども検討していただきたい。			